



図書館だより



2023年
4月28日発行

秋草学園高等学校 図書館

4月も残りあとわずか。1年生のみなさん、高校生活には慣れてきましたか。体験期間が終わり、勉強だけでなく、部活動も本格的にスタートしましたので、忙しく毎日過ごしているのではないのでしょうか。充実した毎日を楽しみつつ、体を労わることも忘れないようにしてください。さて、明日からはゴールデンウィークが始まります。間に2日間平日を挟みますが、連休が続きます。外出の計画を立てている人、家でのんびり過ごす人、部活動に励む人など、色々な過ごし方があると思いますが、ゆっくり読書を楽しむのもおすすめです。

2023年本屋大賞は『汝、星のごとく』1

2023年本屋大賞で大賞に輝いた『汝、星のごとく』は著者 尻良ゆうさんが初めて男女の恋愛を描いた作品。本の帯には「その愛は、あまりにも切ない。」という文字が。その愛を読み、みなさんはどう感じるでしょう。

913.6-ナ『汝、星のごとく』

尻良 ゆう || 著 講談社

瀬戸内の島で暮らす暁海は、親に振り回され、島人から好奇の目で見られ、不安や孤独を心に積もらせていた。島へ転校してきた權もまた自分勝手な母親のもとで暁海と似た思いを背負っていた。

そんなふたりの17歳が出会い、惹かれ合い、共に時間を過ごし始める。しかし、それぞれの人生を歩む中で思いはすれ違い、別れがやってくる。それでも相手の存在が心から消えてくれることはない。月日は流れ、私たちが本を閉じる頃には彼らはもう32歳。散々失敗をし、遠回りをして、暁海と權が選んだものとは。

●愛は毒か、それとも救いか

913.6-ナ『すみれ荘ファミリア』

尻良 ゆう || 著 講談社

体調に生活を振り回されたり、同じ夢を追いかけていた仲間と今の自分を比べてしまったり、どうにもできない思いを内に抱えたすみれ荘の住人たち。その思いはやがて内からはみ出し、他の住人を巻き込みながら、様々なドラマを引き起こす。愛の形を考えさせられる物語。

その他、図書館で所蔵する尻良ゆうさんの作品は以下のとおり

913.6-ナ『流浪の月』 東京創元社

B913.6-ナ『神さまのピオトープ』 講談社

913.6-ナ『わたしの美しい庭』 ポプラ社

913.6-ナ『滅びの前のジャングリラ』 中央公論新社

B913.6-1『非日常の謎』 講談社 に収録『表面張力』



ゴールデンウィークは謎解きに挑戦!

913.6-1『名探偵のままでいて』

小西 マサテル || 著 宝島社

認知症を患い、幻視などの症状を抱える祖父。その祖父が聡明だった頃に戻る瞬間に孫の楓は気づく。それは謎と出会う瞬間。楓が身近で起こった事件の話をするすると祖父の目に輝きが戻り、鋭い推理で真実を導いたのだ!祖父と楓のやりとりに温かみを感じながら謎解きを楽しめる1冊。

913.6-ミ『N』

道尾 秀介 || 著 集英社

全6章から成るこの物語はどの章からどんな順番で読んでいくかが読者に委ねられています。どこから読み始めても物語が繋がっていくおもしろさと、別の順番で読んだらどうなるのだろうというワクワクを感じられます。720通りある中でみなさんが選ぶのはどんな物語でしょうか。

新着コーナーの気になる本

291-チ『地球の歩き方 aruco 東京パワースポットさんぽ』 地球の歩き方編集室 || 編著 Gakken

東京の知られざるパワースポットの情報が詰まった1冊。運氣の上がる場所の他、お寺の境内や大聖堂近くのカフェなどパワーグルメや開運アドバイスなども載っています。ページのデザインもおしゃれで読むだけでパワーをもらえます。GWに早速出かけてみてはいかが?

914.6-マ『あなたはここにいないとも』

町田 そのこ || 著 新潮社

誰かの心に種を撒く『粋』なひとになりたい、と語る町田そのこさん。その思いを元に書かれたこの短編集には、粋なおばあさんたちが登場します。人生には辛いことも辛いこともある。そんな時、経験豊かなおばあさんたちの言葉や行動が大事なことに気づかせてくれる。

司書の今月はこの本読みました

2021年本屋大賞 第2位『お探し物は図書室まで』、2022年本屋大賞 第2位『赤と青とエスキース』、そして2023年本屋大賞で『月の立つ林で』が第5位に選ばれ、今後の活躍に期待が高まる青山美智子さん。『月の立つ林で』は、頑張っているのに思いが空回って身近な相手とすれ違ってしまふ5人の主人公の連作短編集。別々の人生を歩む彼らを結ぶのはタケトリ・オキナの「ツキない話」という配信。月に関するあれこれを静かに優しく語る声が必要な相手との間に感じた溝を埋めるきっかけをもたらしてくれるのでした。その正体もお楽しみに。【今井】